

学会トピックス

平成 21 年度 (2009 年度) 血液・輸血関連学会印象記

浅井 隆 善

静岡県赤十字血液センター

今年度の Hematology に関する学会は、主に国内 1 件、海外 1 件であった。

国内学会は、平成 21 年度 (2009 年度) の第 71 回日本血液学会学術集会が 2009 年 10 月 23~25 日に京都国際会議場に於いて、京都大学の中畑龍俊教授の会長のもとで開催された。海外からの高名な研究者による特別講演が 4 題、各領域の権威による教育講演が 36 題、最新のテーマについてのシンポジウムが 12 題設けられ、特に iPS 細胞に関しては会長シンポジウムとして、中畑会長と山中伸弥教授との座長で活発に議論された。一般演題は、口頭発表 426 題、ポスター発表 724 題で、アフェレシス関連では、末梢血幹細胞移植や血漿交換療法が発表されていたが、造血幹細胞移植では、臍帯血移植の発表が増えている傾向が見られた。国際学会は、第 51 回米国血液学会 (ASH) が、2009 年 12 月 5~8 日にニューオーリンズで開催されたが、筆者は参加できなかった。

次に、Transfusion Medicine に関する国内外の今年度における主な学会は次の如くであった。まず、平成 21 年度 (2009 年度) の第 57 回日本輸血・細胞治療学会学術集会が 2009 年 5 月 28~30 日に大宮ソニックシティに於いて、埼玉医科大学輸血・細胞治療部の前田平生教授による会長のもとで開催された。村上記念賞講演、特別講演 3 題、教育講演 8 題、シンポジウム 6 題、パネルディスカッション 3 題、ワークショップ 4 題、輸血問題特別部会、市民公開講座、ランチョンセミナー 6 題に加え、一般演題では、口頭発表 94 題、ポスター発表 121 題が発表されていた。アフェレシス関連では、末梢血幹細胞移植や血漿交換療法を中心に発表されており、細胞治療 10 題、造血幹細胞移植 18 題、血小板輸血 13 題等々であった。

次に、日本輸血・細胞治療学会の秋季シンポジウムは、最近数年間の血液事業学会および大学病院輸血部

会議との合同開催に加えて、平成 21 年度 (2009 年度) は、さらに国際輸血学会のアジア部会が我が国で開催されることになり、国際・国内 4 つの学会や会議が合同で名古屋市にて開催することになった。国際輸血学会は愛知医科大輸血部の高本滋教授が、秋季シンポジウムは筆者が、そして、血液事業学会総会長は、神谷忠愛知県赤十字血液センター名誉所長が会長となり、輸血会議議長の浜松医科大学輸血部竹下明裕部長との合同で 2009 年 11 月 14~18 日に開催された。初日の 14 日は Japanese day として日本語で輸血に関する我が国特有の問題を討議したが、15 日からは全て英語で国際的な輸血問題について発表討議した。国際輸血学会会長の Erhard 教授を筆頭に海外の参加者 450 名に加えて、国内学会会員から 1,150 名が参加し、企業関係者の参加も含めると約 1,900 名が集った (写真 1, 2)。我が国における研究者からも、iPS 細胞等の再生医療、ADAMTS 13、輸血後 GVHD、HIT 等々最先端の輸血医学や細胞治療に関する発表や教育講演がプログラムに盛り込まれ、我が国に於ける輸血細胞治療におけるレベルの高さに賞賛の声があった。一般演題では、造血幹細胞採取や移植、再生医療に関する発表が見られたが、洗浄血小板の効果についての発表も見られた。懇親会の GALA-dinner は、琴の演奏で静かに始まったが、最後には地元名古屋市民の太閤連による阿波踊りで大いに盛り上がった。前年からの世界不況のために海外からの参加が危ぶまれ、企業からの援助も例年になく厳しい状況であったが、関係者の努力により予想以上の成果が得られ、国際交流の良い機会になった。

因みに、今年の米国血液銀行協会年次総会 (2009 AABB) は 2009 年 10 月 24~27 日にニューオーリンズで開催されたが、不況の影響で参加者が少なく、GALA-dinner が中止されたとのことであった。



写真1 国際輸血学会アジア部会, 日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム合同学術集会受付

今年度最後の血液・輸血関連学会として, 平成22年(2010年)2月26~27日には, 倉敷市で川崎医科大学胸部心臓血管外科の種本和雄教授の会長による第23回日本自己血輸血学会が開催された。今年は各診療科による術前・術中, または回収式自己血輸血の成績発表とともに, 昨年から開始された学会認定自己血



写真2 国際輸血学会アジア部会, 日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム合同学術集会開会式の様子

看護師制度に関する話題も注目を集めた。

以上, 今年度の各学会では, 血液学関連でTTPの血漿交換療法や, TMAに対する治療の機序が明らかにされつつあり, ドナーアフェレシス関連においても, 洗浄血小板の製造や, 再生医療のための細胞採取等々, 目的が細分化される傾向が見受けられた。